

13 女性を追いつめる「生理の貧困」（女性）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、こはまもとこがお届けします。

5 みなさんは、「生理の貧困」という言葉をご存じですか？

「生理の貧困」とは、経済的な理由で生理用品を十分に購入できない女性の問題です。この背景には、コロナ禍が長引き、収入が減ったり失業したりして女性の貧困が深刻化していることがあります。社会的な問題として注目されていますが、生理のことを話すのはタブーであるという風潮も根強く、困っていても声を上げづらい女性が多くいます。

15 太宰府市にある筑紫女学園大学では、こうした問題を抱える学生を支援するため、地元薬局の協力を得て、学内で生理用品を無償でもらえる体制を整えています。

また、福岡県の「女性と社会のつながり支援事業『つながる』」との連携で、学内配布キャンペーンも行い、昼休みの30分ほどで生理用品200パックが学生たちに手渡されました。

20 （ナレーター）この無償配布を提案した准教授の大西良先生は、生理の貧困が及ぼす影響について次のように語ります。

25 【大西さん役】私は、以前からシングルマザー支援や夜回り活動などで女性の支援をしてきましたが、今は経済的に困窮する女性が増えていると感じます。

30 お金がないことで生理用品が買えず、長時間使うなどの我慢をして清潔を保てなくなると、隠したい心理から外出をあきらめるようになります。その結果、人とのつながりやいろいろな機会が失われ、不安や孤立感がつのつて、精神的に追いつめられることもあります。

「生理の貧困」は、女性の体や心、社会との関係など生活のすべてに影響があり、女性の人権に関わる問題なのです。

35 (ナレーター)「生理の貧困」を支援する動きは、福岡市のほか全国の自治体や団体を中心に各地で広がっています。学校のトイレに生理用品を設置したり、自治体窓口で無償配布をしたりして、生理用品の入手が困難な女性を支援ようとしています。

40 女性にとって生理は日常生活そのものであり、女性だけの特性です。そのことを一人一人が理解し、女性の負担や苦痛をやわやわと支援していく社会の体制づくりが必要です。

(本文867字)